

ギラン・バレー症候群

原因

・下痢を起こす細菌(カンピロバクター)やウイルス感染の後におこる末梢神経炎*です。病原体と末梢神経の表面の形が似ているために白血球が同時に炎症をおこしてしまうのが原因と考えられています。この炎症は細胞の表面に抗体*というタンパク質がくっつくことでおこります。

症状

- ・下痢や風邪症状の1-3週間後に出現する顔面、のど、手足のしびれと麻痺が主な症状です。
- ・ときに目を動かす筋肉が麻痺してものが二つに見えることがあります。
- ・呼吸筋が麻痺して人工呼吸器が必要になることがあります。
- ・自律神経が障害されるとひどい便秘になったり、血圧が激しく上下したりします。

検査

- ・血液検査(抗ガングリオシド抗体が出現する)
- ・脳脊髄液検査(髄液タンパクが上昇する)
- ・神経伝導検査(神経に流れる電気のスピードが遅くなります)

似たような症状をおこす病気

- ・脳梗塞、脳腫瘍、脊髄炎、脊髄腫瘍などはMRIや脳脊髄液検査で検査します。
- ・糖尿病やビタミンB₁₂欠乏症などによる末梢神経障害は血液検査で診断します。

治療法

1. 抗体に対する治療:

- ① 血漿交換; 週3回程度、全身の血液を交換して血中の抗体を除去します。
- ② 免疫グロブリン療法; 免疫グロブリンという人の血液から抽出したたんぱく質を5日間点滴して抗体を中和します。ショック、未知のウイルス感染、脳梗塞、発熱、頭痛などに注意します。
- ③ 抗補体C5モノクローナル抗体(エクリズマブ); 重症の方に有効なことがあります。

2. リハビリテーション; 早い時期から手足、のど、呼吸の筋肉のトレーニングをしてゆきます。

3. 対症療法; 食事が飲み込めなければ点滴や流動食、呼吸困難になれば人工呼吸器、麻痺が強ければ手足の装具、杖、車椅子などを使用します。

注

- * 末梢神経; 脳や脊髄以外の頭や手足の神経。運動神経と感覚神経がある。
- * 抗体; 細菌や神経の表面に結合して炎症を誘発するたんぱく質(免疫グロブリンの一種)。
- * 抗体に対する治療; これらはいずれも安価ではありませんが高額医療制度が利用できます。

さいごにひとこと

1~6ヶ月間の治療で80%の方は後遺症なく治りますが、20%ほどの方はなんらかの後遺症が残ります。直ったあとに再発することはほとんどありません。

みやさきクリニック 宮崎秀健